

## 長和町新庁舎の特徴

長和町新庁舎においては、町民をもてなし、町民のための庁舎という発想により『みんなが集まる庁舎』となることを目指しました。それにより、人が集まり交流が生まれ、町に活気があふれ、町が輝くような庁舎づくりをテーマにつくられました。

### 行政ゾーンと交流ゾーン

来庁者の方々を迎え入れる『くの字』型配置とし、くの字の一边を『行政ゾーン』。もう一边を『交流ゾーン』としました。交流ゾーンでは様々なイベントが行われ、情報発信の場となります。新庁舎が単純な事務手続きの場にとどまらず、町民の皆様の新しい交流の場となるよう意図しました。

また、行政ゾーンは将来的には行政組織の変化にも追従できるように、シンプルなプランで構成しました。

### 木材(長和町産唐松材)の活用

長和町らしさを目指す中で、長和町産の唐松材を構造体、内装材、外装ルーバーに積極的に用いました。

内装に木材をふんだんに使用し、木が香るゆったりとしたやさしい空間としました。外装ルーバーは長和町固有の歴史に培われた宿場町の面影を感じさせるとどこか懐かしい雰囲気としました。町民の皆様が地元の木材を肌で感じて愛着を持っていただけるような庁舎としました。

### 災害時の対応

万一の災害時には庁舎内に災害対策本部が置かれ、また帰宅困難者への一時避難所として交流スペースが利用されます。

### 環境への配慮

建物内は太陽光発電設備(10kW)、地中熱ヒートポンプ空調(ロビー、ギャラリーetc)、LED照明器具などの自然エネルギーを利用した設備機器を取り入れ、環境にも配慮した庁舎としました。

### 環境への配慮を考えた省エネシステムの採用

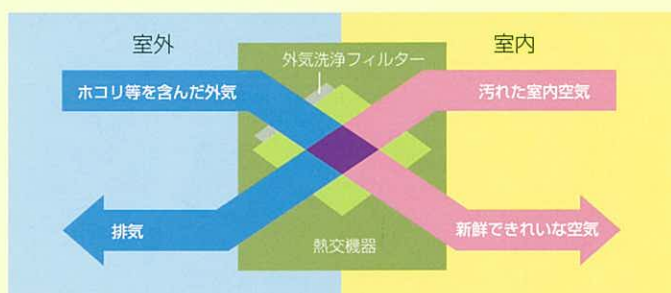
#### 太陽光パネル

屋根には太陽光パネルを設置し、日中最大10kwhの発電を行います。



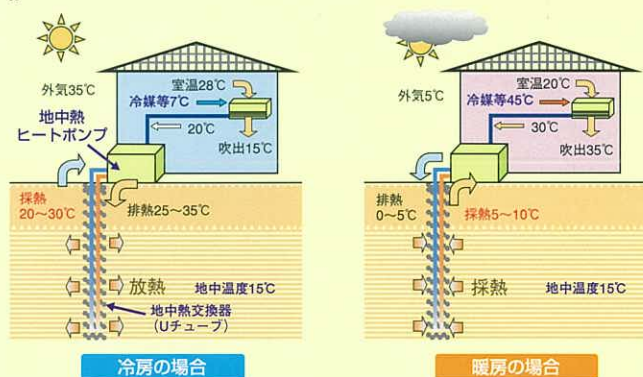
#### 換気システム

ロスナイ換気システムを採用。外気を取り込む際、室内の空気に近づけて給気することにより、エアコンの台数・サイズを抑え、ランニングコストの低減を図ります。



#### 地中熱ヒートポンプ空調システム

ホール及びギャラリーには、地中熱ポンプを利用した空調システムを導入。



#### 窓(サッシ)

枠形材断熱構造の二重サッシを採用し、開口部の断熱性能を高めて、冷暖房の負荷を抑えるとともに、窓周辺の結露やカビの発生を抑えます。



#### 照明器具

白熱灯や蛍光灯に比べて省エネ・長寿命のLED照明を採用し、ランニングコストを抑えます。